JIM-NET 便り

2024 2月号

発行：2024年2月28日

特定非営利活動法人　JIM-NET（ジムネット）
〒169-0075　東京都新宿区高田馬場4丁目4番11号　内藤ビル2C
電話 03-6228-0746　メール info-jim@jim-net.net

JIM-NET
الشبكة الطبية اليابانية العراقية

お陰さまで
JIM-NET
発足20年を
迎えました。

目次

シリア北東部の今～国内避難民キャンプの医薬品支援と進まぬ復興～　斉藤亮平（海外事業担当）…… **P2-3**
チョコ募金に協力をして …… **P4-5**
JIM-NET20 年を迎えて　池住義憲（JIM-NET 代表理事）・谷山博史（JIM-NET 顧問）…… **P6-7**
今後 JIM-NET に期待すること　酒井啓子（千葉大学教授）…… **P8**

シリア北東部の今

～国内避難民キャンプの医薬品支援と進まぬ復興～

斉藤亮平（海外事業担当）

シリア国内支援での事業パートナーであるクルド赤新月社（以下 KRC）を通じて、今年度もアルビル事務所スタッフのリームが２度にわたり、シリア北部及び北東部へ渡航しました。この地域では、シリアの混乱で過激派による民間人への拷問や殺害が起こり、2016 年からはトルコ軍からの攻撃や侵攻に晒され、混沌とした状況が今なお続いています。そんな中、2023 年２月６日、トルコとシリア国境付近を震源地とした M7.8 の地震が発生し、シリアとトルコ国境付近の地域に甚大な被害をもたらしました。震災から一年を迎えましたが、ウクライナ戦争やイラスエル軍によるガザ侵攻など世界中が混乱する中で、シリアへの支援や報道は激減し、地域住民は劣悪の状況下から抜け出せぬまま日々を過ごしています。この地域に住む人の約 85％が貧困に直面しており、公務員の１ヶ月分の給与でも１週間分の食料しか買うことができません。

【国内避難民キャンプへの医薬品支援】

輸入に頼る医薬品も価格が高騰しており、風邪薬や胃薬といった安価で手に入るはずの医薬品も購入することができない人が多くいる中、国内避難民キャンプでも慢性的な医薬品不足が続いています。医薬品の在庫がほとんどないキャンプもあり、現地の保健所や関係者から状況やニーズを聞き、医薬品を届けるため KRC と連携しながら支援を進めています。とりわけ必要とされている医薬品は、抗炎症剤、解熱剤、狂犬病ワクチン、ヘビ咬傷やサソリ刺傷の抗毒素剤、リーシュマニア症（寄生虫疾患）の治療薬ですが、全ての医薬品が不足しており、事態は深刻です。現地からは、引き続き医薬品や医療品への支援要請の声が大きく、昨年 12 月に開設されたがんセンターへの支援も求められています。

現在のバルハダーンキャンプ

写真提供：クルド赤新月社

バルハダーンキャンプの保健センターは物資不足のため、医療を提供できていない。

戦争と地震によってダメージを負った建物が立ち並ぶシャハバ地域

【トルコ・シリア地震のその後の様子】

JIM-NET が緊急支援を実施したシャハバ地域は、トルコ軍が支配するエリアとシリア政府が管轄するエリアが混在し、物流が困難な地域です。支援物資が届くのも通常より１～２ヶ月多く時間がかかり、混迷を極めています。発電機の故障や燃料不足により、電気が使えない状態が続いている家庭が多くあり、地下水位も低下し、水を汲み上げるためのポンプシステムに電力が必要なため、水も十分ではありません。KRC では、シャハバ地域で７つの保健センターを運営していますが、その中の２つはバルハダーンキャンプとサルダムキャンプにあります。しかし設備が脆弱で、緊急時に救急車で患者をキャンプ外の病院に連れていく以外は基本的に何もできません。搬送先の病院も設備や医薬品が十分でないため、緊急の患者は遠方の病院に搬送されるケースも珍しくありません。春から夏にかけては今年もコレラの蔓延が懸念されます。シリアの支援から戻ったリームは「戦争の惨禍だけでなく、トルコ軍の侵攻、そして地震と、ここに住む人たちは目の前にあるものを全て破壊されてきました。これ以上何を壊されなければいけないのでしょうか？ 人々の夢は日に日に消えています。しかし、キャンプで暮らす彼らは、自分のテントの前に木を植えていました。生きる糧を取り戻し、この土地と自分たちを結びつけるために、そしてこの土地で生きる自分たちを奮い立たせるために力を絞っているかのようにも見えました」と話します。

KRC の協力のもと、第２弾シリア地震被災者支援として19,000USD 相当の医薬品支援を行いました。詳細は別途、ご支援くださったに方々にお送りします。

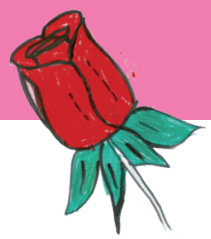
JIM-NET20！応援募金にご協力お願いします。

JIM-NETは、今年で発足して20年を迎えます。イラク戦争後の復興も進まず、病院には薬もなく、戦争で疲弊し切ったイラクの病院の窮状を受けてイラクの子どもたちの命を助けようと2004年に設立されました。イラク戦争が終結してから21年が経過しましたが、シリア紛争後の混乱、ウクライナ戦争、イスラエル・パレスチナ紛争も未だに先が見えず、世界は混沌としています。

コロナ禍や円安の影響を受け、私どもを取り巻く環境は厳しさを増しておりますが、歩みを止めずに進み続けてまいりますので、『発足20年の応援募金』にご協力いただければ幸いです。

詳細は同封のチラシやホームページをご覧ください。

チョコ募金に協力をして



チョコ募金から始める「平和」と「保育」の架け橋

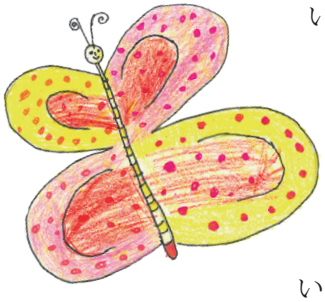
鈴木まどか（子どもの文化研究所）

私たち子どもの文化学校は 50 年にわたって、現職保育者のための夜間講座を行っています。保育界をリードする著名な講師陣と対面ならではの学び、そして新しい試みにいつもチャレンジしています。

昨年はウクライナ侵攻・ガザ地区の侵攻と「平和」が脅かされる1年となってしまいました。様々なメディアで戦争に関する報道を目にするに従い、保育現場では「子どもたちが敏感になっているのでは」と心配する声がありました。また、受講生の保育者からは、遊びの中で子どもたちからふとした瞬間に出てくる「ミサイル」「人質」といった言葉にどう対応すべきなのかという悩みも聞かれました。

今こそ、人を育てる保育の現場から「平和」の大切さを訴えたいと、文化学校では、堀尾輝久先生の「地球時代の平和と教育」の講座をはじめとして、汐見稔幸先生など多くの先生方に「平和と保育」をキーワードに講義を展開していただきました。

その一方で、講師の先生方が顔を赤くしてふるわれる熱弁と受講生の反応には、少し乖離があるように感じました。というのも、受講生の保育者は、平和の大切さを子どもたちに伝えるといっても、何から始めればいいのか、悩んでいたのではないのかと思います。



そんな時に今年もチョコ募金の協力の声がけを頂きました。子どもの文化学校の事務局では、この募金が「平和」へのアクションの一歩として、毎講座で「チョコ募金」のご案内をさせていただきました。

JIM-NET さんからいただいた毎日新聞掲載の鎌田先生の記事も配布していたので、厳しい環境の中で生きる子どもたちや、最前線で医療支援に働くスタッフの姿に胸を打たれる受講生も多く、４個セットの人気が高かったです。

特に赤い蝶々のイラストの缶が人気があり、子どもの大胆なデッサンや色遣いに「かわいい～！」と声をそろえる様子が微笑ましく、保育者らしくて、私たちも笑みがこぼれました。

文化学校も昨年はまだコロナ禍の影響を受け、対面講座での人数はこれまでよりも少ないにも関わらず、例年の２倍の募金をいただくことができました。

世界中の子どもたちの幸せを願い、仕事を終えた後も熱心に子どもたちとその未来のために学び続ける受講生の保育者たちを誇りに思い、大いなる敬意を表したいと思います。

汐見稔幸保育教室受講生のみなさん

地元で人のお役に立てることを

平野裕子（紅屋オーナー）

「紅屋」は、北千住の駅から徒歩５分ほどの場所でオーガニック食品や洋品、プチギフトに最適な雑貨を扱っています。あるご縁で知った「チョコ募金」を店内でお預かりして３年目となりました。徐々に扱う数量も増え、Coffee for Peace！もご紹介しています。募金をして可愛いチョコ缶を手にできる、美味しくて嬉しい「チョコ募金」。お客様からも楽しみにして頂いております。

「できることを無理せずに」、「人のお役に立てることを」継続したいと願っています。

地元も大切ですので、【あだち子ども支援ネット】さんはじめ、貴重な活動を続ける団体への応援や差し入れを届け、様々な繋がりも増えてきました。お店の奥ではワークショップも開催し、沢山のお客様の交流の場として親しんで頂いています。皆さまの笑顔とご縁がつながり、地味に目立たなくても喜んで頂けることが嬉しいです。

イラクとシリアの病気の子どもたちの笑顔を心に描きながら、北千住からチョコ募金を応援しています。

平野さん（右）

「子どもたちを助けたい」冬の定番活動「チョコ募金」

田野倉 悠（自然派くらぶ生活協同組合）

自然派くらぶ生協は、東京都八王子市にある小さな生協です。2013 年度から取り組みを始めたチョコ募金ですが、そのきっかけは組合員の声でした。自然派くらぶには、募金やボランティア活動をしている『虹の会』という組合員組織があります。所属する組合員が「個人的に支援していたチョコ募金を他の組合員にも呼びかけられないか?」という相談から当生協全体の取り組みとなり、初回から多くの組合員の支援が集まりました。翌年に「今年もやりますか?」という嬉しい問い合わせがきたこともあり、今では冬の定番活動になっています。

「子ども達を助けたい」というたくさんの善意が集まり、JIM-NET の活動に役立っていることを嬉しく思うと同時に、日々流れてくる世界のニュースで傷ついている子どもたちを目にする度、心が痛くなります。「チョコ募金」をしなくてもよい世界になることを強く願っています。

自然派くらぶ虹の会のみなさま

“We are NOT numbers！”
（私たちは、「数字」じゃない！）

池住義憲（JIM-NET 代表理事）

この表現、イラク戦争が始まった 2003 年 2 月以降、使われた言葉。当時「イラク・ボディ・カウント」(注) という国際グループが毎日のように戦争被害者を数え、国際社会に訴えていました。

＊

私は 2009 年から理事として加わり、昨年 6 月から鎌田實さんのあとを引き継いで代表を務めています。

JIM-NET は、イラクのがんの子どもたちの医療支援に取り組んで 20 年目。今年のチョコ募金のチョコ缶セットは、 9 歳のアフマド君と 15 歳のシャームさんが描いた絵などです。アフマド君は、生後 6 ヶ月の時に血友病と診断。シャームさんも 3 年前、血液の病気に…。

これまで JIM-NET がサポートしてきた多くの子どもたちが劣化ウラン弾の影響を受けてきたと考えられます。年齢・性別を問わず、被害者一人ひとりの周りには、家族はじめ数十、数百人の心配・悲しみがあります。数字化すると、それが見えにくくなる。数が多くなればなるほど、見えなくなる。感じなくなる。しかし JIM-NET は、一人ひとりに思いを馳せる。「数字」で数えない。私はイラク戦争時からの体験・学びから、当初からの JIM-NET のこうした思い・姿勢に共感し、参加しました。

＊

白黒写真を見てください。これは 1975 年 4 月 29 日夕、サイゴン解放の前日ですね。当時の南ヴェトナム・サイゴン（現在のヴェトナム社会主義共和国ホーチミン市）の米国大使館裏門前で撮った写真。当時私は、世界 YMCA の仕事でサイゴンに赴任中。大使館裏門前は、国外脱出を目論むサイゴン市民らで大混乱。私も国際報道関係者らと共に裏門へ。

銃を構えて塀の上に立っている米兵は、市民を蹴落とす。そして私たち外国人を優先して引き上げる…。

私の生き方が決まった瞬間でした。私はここに残る。私はヴェトナムの友人・仲間と共にここで生きる。以後私は 35 年間、YMCA/ アジア保健研修所 (AHI、愛知県日進市)/ 国際民衆保健協議会 (IPHC、本部ニカラグア) の三つの NGO に従事。そして今、JIM-NET に参加。残されている豊かな時間、私は誰の側に立つか。誰とともに歩みを進めるか。明確になった瞬間でした。

（注） イラク・ボディ・カウント（Iraq Body Count）
世界最大の公開データベース。 2003 年イラク戦争開始以降の民間人 / 戦闘員死者数を記録している。

1975年4月29日夕、サイゴン市(現在のホーチミン市)の米国大使館裏門前（池住撮影）

JIM-NET事務所で事務局スタッフの皆さんと

JIM-NETの20年

時代の転換点の現場証人
戦争の時代への警鐘

谷山博史（JIM-NET 顧問）

第二次世界大戦後の世界が大きく転換しようとするとき、そこには常にイラクの存在がありました。一度目は東西冷戦が終結する時期に起こった湾岸戦争のとき。二度目は対テロ戦争の始まりと終わりを画したイラク戦争のときです。湾岸戦争でアメリカは米ソ二極支配をアメリカ一局支配に転換さることに成功します。イラク戦争でアメリカは国際法違反の戦争をイラクにしかけますが、結局撤退せざるを得なくなり対テロ戦争は失敗に終わります。

JIM-NET が発足した 2004 年当時、イラクで二つの戦争のつけを負わされて最大の被害者であるイラクの子どもたちの状況は悲惨をきわめていました。湾岸戦争で使われた劣化ウラン弾の後遺症と考えられる白血病に悩まされ、同時にイラク戦争の影響で医療施設も薬剤も極度に不足していたのです。JIM-NET はイラクで医療支援に関わる複数の日本の NGO のネットワークとして活動を始めます。それぞれの団体の強みを生かし子どもたちの医療支援の効果を最大化すると同時に、NGO ネットワークとして、政策提言活動に力を入れてきました。

その後 JIM-NET は支援実施団体として生まれ変わり、JIM-NET ハウスをはじめユニークな子ども支援を展開します。発足して 20 年。JIM-NET は現場に張り付きつつ忘れられた戦争の現実を社会に問いかけ、戦争に向かう世界に警鐘を鳴らし続けます。

JUSTPEACE!20

～JIM-NET発足20年企画展～

皆さまの変わらぬご支援とご協力を得て、JIM-NET は今年で発足 20 年目を迎えます。改めて心から感謝申し上げます。

この節目にあたり、神保町・文房堂ギャラリーで企画展『JUSTPEACE!20』を開催いたします。昨年 9 月にモスルを訪問された田村公祐さんに貴重なお写真をお借りし、現地の「いま」をご紹介いたします。また、この 20 年間、JIM-NET が出会ったイラクとシリアの子どもたちと彼らが描いた作品とも再会頂ければ幸いです。会場で皆さまとお会いできることを楽しみにしております。

☆期間中のイベントは、同封のチラシをご覧ください☆

会期：2024年3月14日（木）～18日（月）
時間：11：00～18：30
会場：神保町　文房堂ギャラリー4F

今後JIM-NETに期待すること

酒井啓子（千葉大学教授）

JIM-NET が 20 年前、イラク戦争直後のイラクに医療支援を始めたことは、たいへんな驚きだった。イラク戦争は、「戦争」が同時中継された戦争として当時は衝撃的で、容赦なく市街地にミサイルが投下されるなかで、いかにイラク人たちが攻撃に無防備にさらされているかに胸が痛んだ事件だった。と同時に、日本人をはじめ海外からイラクを訪れるなど考えもできないほど、戦争の集中砲火を浴びる場所だった。そんなイラクに、がんの子どもたちに医薬品や医療支援をこつこつと届けるなどという試みが、ごく少数の個人の手で始められたことは、日本の NGO の転機だったのではないかとさえ思える。

さて、20 年たって、イラクにもようやく復興の順調な成果が見えてきた。石油価格の上昇もあって、日本の戦後の高度成長的な華々しさすら感じられる、モールやレストランの建設が相次いでいる。

それを考えると、日本からの支援は今後どのような意味を持ち得るのか、改めて問う時期にも来ているのかもしれない。もともとイラクでは製薬産業が発達していたし、医者も高いレベルの技術を誇っていた。残念ながら、モールはできても、医学、薬学分野でかつての高い技術を回復することは、今のイラクにはできていないのではないか。周辺国に医療ツアーに行ける富裕層だけしか、高額ながん治療を受けられないのか。

今後持続可能な復興を支援するためには、人材育成にさらに力を注いでもいいのではないか。かつて日本企業が高額な医療機器を石油マネーと引き換えに、ふんだんにイラク各県に提供していた。イラン・イラク戦争下で、残念ながらそれを使いこなせるイラク人医師が十分にいたとは思えない。ビニールを被ったままの機材も見たことがある。

経済成長は、喜ばしいことだ。だが、イラクの医療界が戦前のように、石油マネーで海外から機材さえ買えばよい、という時代に戻ってしまうことは、避けたい。こつこつと子どもたちの闘病を支えてきた JIM-NET の経験を、これからはイラク人の医師たちに伝える・引き継いでいくことも考えたらどうだろうか。

能登半島地震支援（関連団体寄付受付中）

今回の能登半島地震を受けて、被災地支援を始めた団体をご案内いたします。
ご寄付は以下の各団体までお願いいたします。

★寄付先① JCF（日本チェルノブイリ連帯基金）

JCF（日本チェルノブイリ連帯基金）は石川県珠洲市上戸小学校避難所への支援を開始しました。避難している皆さんは、顔の見えるつながりで確実にお届けします。

口座番号：00560-5-43020
口座名：日本チェルノブイリ連帯基金
連絡欄：能登支援

●その他口座から「郵便振替」する場合
インターネット銀行および他金融機関からの振込用
059（ゼロゴキュウ）店（059）
当座：0043020

★寄付先②ミツバチ作戦@能登半島への支援

令和６年能登半島地震で被災された方々にミツバチのように小さいながらも愛を運んでいくプロジェクトです。主に輪島市周辺から志賀町にかけての地域で活動します。

ゆうちょ銀行　普通預金
記号：10130　番号：90364021
口座名：カマズプロジェクト

●他銀行からは
店名：〇一八　店番：018　普通預金
口座番号：９０３６４０２　カマズプロジェクト

JIM-NET
الشبكة الطبية اليابانية العراقية

特定非営利活動法人　JIM-NET（ジムネット）
郵便振替口座　00540-2-94945　加入者名　日本イラク医療ネット
Facebook 、Twitter、Instagramもぜひご覧ください。『JIM-NETで検索』
募金・サポーター会費はこちらへ➡